

積水ハウス株式会社

第71期 報告書

2021.02.01 > 2022.01.31

BUSINESS REPORT

ビジネスレポート

ト
ッ
プ
メ
ッ
セ
ー
ジ

代表取締役 社長執行役員 兼 CEO

仲井 嘉浩

コロナ禍が続く中、グループ全体の ベクトルを合わせ、過去最高の収益を更新。 社会的使命を胸に、さらなる成長を目指します。

第5次中期経営計画の最終年度がスタートしました。コロナ禍や資材価格高騰など厳しい事業環境が続く中、2021年度に過去最高の収益を達成できたのは“「わが家」を世界一幸せな場所にする”というグローバルビジョンに基づく事業戦略が順調に推移しているからです。その中心にあるのは、「ファミリー スイート」に代表される高付加価値住宅の積極的な提案です。2018年、積水ハウスは日本の企業として初めて「幸せ」を研究する「住生活研究所」を開設。「住めば住むほど幸せ住まい」をテーマに、人生100年時代のライフスタイルに着目したソフト面の研究開発を推進し、その成果として新しいリビングのあり方を提案する「ファミリー スイート」を生み出しました。

新型コロナウイルス感染拡大により、家で過ごす時間、家族同士の距離感など、住まい

のあり方について改めて考える機会が増えました。自分らしく健やかに、思い思いにくつろぐ暮らしの提案は、時代の動き、人々の願いと、期せずしてうまくかみ合い好評を博しました。戸建住宅のみならず、賃貸住宅、リフォーム、マンション等でも高付加価値の追求が事業をけん引しています。

また、生活提案型の事業展開は、海外市場にも浸透し始めています。アメリカの住宅販売事業を中心に、確かな手応えを感じており、2025年までに海外での年間販売1万戸という目標に向け、M&Aを含めたグローバル展開を加速させてまいります。

「イノベーション&コミュニケーション」を推進力に、時代を先取りするアクションで企業価値の向上にまい進する積水ハウスを、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

Top Message

Q&A

◀ 01 ▶ Question

過去最高となった2021年度の業績。どのような取り組みの結果か？

2021年度はグローバルビジョンを軸に全事業でベクトルを合わせて推し進めてきた取り組みの成果が出た1年でした。

「幸せ」に着目したソフト提案、加えて、他社に先駆けて積み重ねてきた圧倒的な環境技術など積水ハウスの“強み”が、ここにきて大きな力を発揮しています。特に自宅時間の増加を受け、より具体的な生活提案を盛り込み誕生した「ファミリー スイート おうちプレミアム」は、鉄骨および木造住宅で展開し、業績全体を力強くけん引しました。

累積建築棟数世界一を誇るネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（ZEH）「グリーンファースト ゼロ」は、2050年カーボンニュートラルに向けた政策支援などの追い風も受け、採用率は約9割です。また、コロナ禍の影響で需要の高まるリフォーム事業では、提案型・環境型の営業展開が成長を後押ししています。

賃貸住宅でのZEH提案拡大、積水ハウス不動産グループの業務改革、組織再編の成果

も出てきています。ここでのポイントは、ハード・ソフト・サービスの高いレベルでの融合です。積水ハウスグループのブランド力、技術力、多様な人財から生まれる新たな発想、新提案を、お客様に的確にお届けすることで、コロナ禍という難局を乗り切る体制が出来上がったと考えています。

◀ 02 ▶ Question

中長期の視点から見た今後の取り組みは？

住環境やライフスタイルに関わる住まいのビッグデータを活用し、「健康」「つながり」「学び」を軸としたサービスを提供する「プラットフォームハウス構想」の推進・進化が重点課題になります。

その第一弾として間取り連動スマートホームサービス「プラットフォームハウスタッチ」を昨年発売。搭載率は順調に伸長しています。

間取り図などの各種データを強固なセキュリティ環境に格納・蓄積し、スマートフォンアプリで住宅設備の操作・確認が可能になります。さらに、新たなサービスを順次インストー

ルし、「幸せ住まい」を拡張させる予定です。

また、工業化住宅のビジネスモデルを世界に普及させ、「積水ハウステクノロジーを世界のデファクトスタンダードに」というビジョンは、グローバル企業を目指す中で私たちが果たすべき重要なミッションです。

昨年12月にはアメリカ オレゴン州ポートランド地区のトップビルダー、Holt社を完全子会社化しました。西海岸での事業拡大と同時に互いのノウハウを融合させながらベクトルを合わせ、「積水ハウステクノロジーの移植」に力を注いでまいります。

◀ 03 ▶ Question

変化の続く社会で、積水ハウスが担う新たな社会的責任は？

日本の住宅ストック約5,000万戸のうち、現在の耐震基準に満たない戸建住宅が約500万戸。現行の断熱基準を満たす住宅は、わずか13%という厳しい現実があります。その上で、良質な住宅ストック形成という観点からの建て替えやリフォーム促進は、今後の事業戦略の柱であり、社会的使命でもあると

認識しています。また、技術面・運用面でさまざまな優位性を持つ賃貸住宅やマンションのZEH化も加速させます。

住宅のストック価値には「まちの財産」としての“美しさ”も含まれます。この20年間に1,700万本以上の植樹を積み重ね、生物多様性保全を推進してきた「5本の樹」計画も「まちの財産」づくりの一環です。ESG経営のリーディングカンパニーを目指す企業として、地域への思いを将来にわたって人々と共有する大切な取り組みと位置づけています。

積水ハウスが重視しているのは社会課題を解決する“大義のあるイノベーション”です。そのためには、社員一人ひとりが、社会の一員として自律的に成長することが不可欠です。自律的なキャリア形成を促す新しい人事制度もスタートさせ、社員の「幸せ」、モチベーションアップと「イノベーション&コミュニケーション」の相乗効果で、さらなる企業価値向上を図ります。社会課題に真摯に取り組み、持続的に成長し続けることが自らに課せられた社会的責任だと自覚し、積水ハウスは新たなステージに歩みを進めます。

業績報告

連結決算ハイライト

売上高

前年度比 +5.8%

2兆5,895億円

営業利益

前年度比 +23.4%

2,301億円

経常利益

前年度比 +24.6%

2,300億円

親会社株主に帰属する当期純利益

前年度比 +24.6%

1,539億円

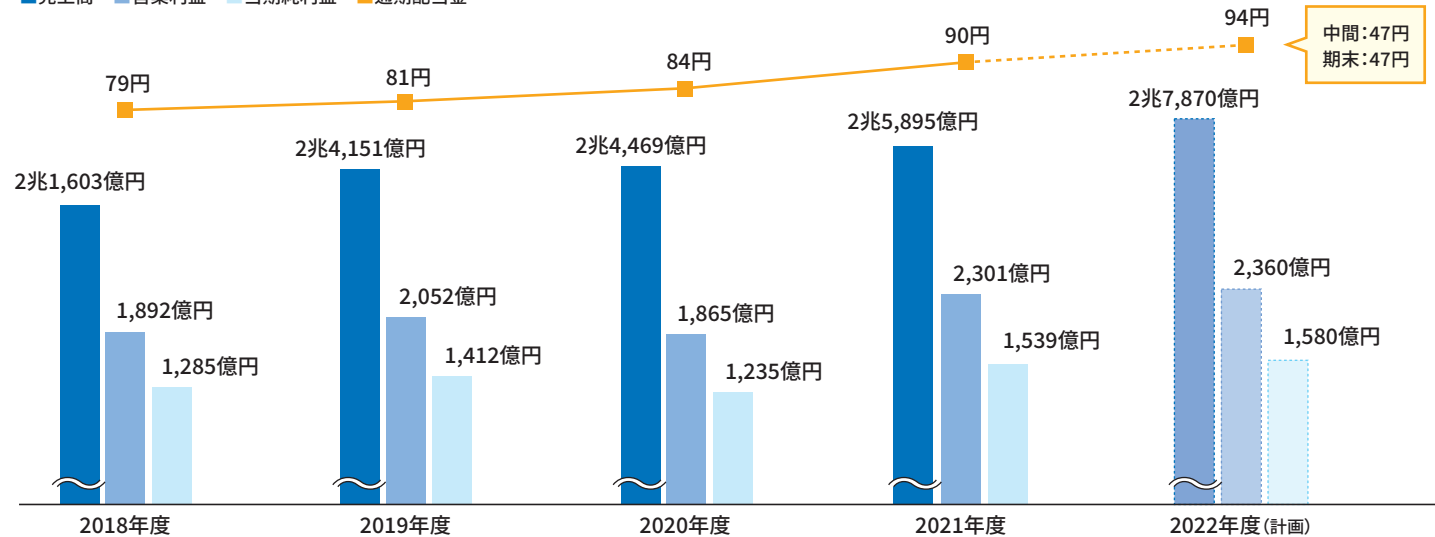
累積建築戸数

前年度末比 +38,251戸

254万4,849戸

2021年度決算は、新型コロナウイルス感染症への対策と社会経済活動の両立を進める事業環境の中、資材価格高騰の影響もありましたが、戸建住宅・賃貸住宅におけるファミリー スイートやZEH等の高付加価値提案による利益率向上や米国事業の伸長等により、売上高2兆5,895億円、営業利益2,301億円と、過去最高の売上高・利益を更新しました。また、配当金は前年度比6円増配の通期90円と、10年連続の増配となりました。第5次中期経営計画の最終年度である2022年度は、先行き不透明な情勢であるものの、国内外の好調な受注推移等を背景に、売上高2兆7,870億円、営業利益2,360億円と、さらなる増収増益を目指します。配当金は前年度比4円増配の通期94円を予定しています。

■売上高 ■営業利益 ■当期純利益 ■通期配当金



貸借対照表

(単位:億円)

	2020年度末	2021年度末
流動資産	17,807	19,527
固定資産	8,451	8,484
資産合計	26,258	28,011
流動負債	8,357	8,679
固定負債	4,212	4,123
負債合計	12,569	12,802
純資産	13,688	15,209
負債・純資産合計	26,258	28,011

キャッシュ・フロー

(単位:億円)

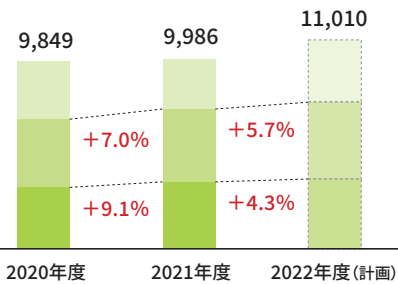
	2020年度	2021年度
現金及び現金同等物の期首残高	5,832	6,002
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,919	1,180
投資活動によるキャッシュ・フロー	△955	△1,137
財務活動によるキャッシュ・フロー	△776	△1,117
現金及び現金同等物に係る換算差額	△19	201
現金及び現金同等物の期末残高	6,002	5,151

請負型ビジネス

(単位:億円)

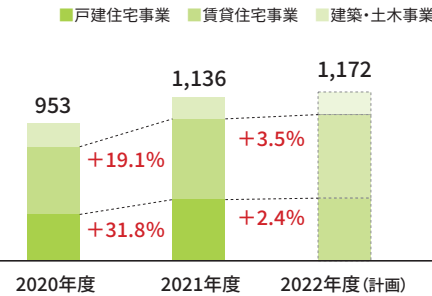
売上高

戸建住宅、賃貸住宅ともに順調な工事進捗により、建築・土木の減収をカバーし増収。次年度も好調な受注継続による増収を計画。



営業利益

戸建住宅、賃貸住宅ともに利益率が改善し増益。次年度も資材価格高騰の影響はあるものの、高付加価値提案の継続やコスト削減を図り増益見込み。

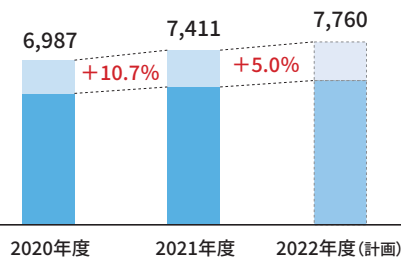


ストック型ビジネス

(単位:億円)

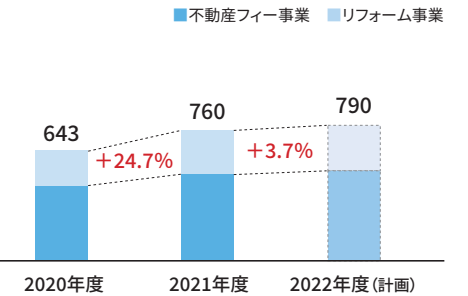
売上高

リフォーム、不動産フィーともに安定成長が継続。より快適な住まいへの関心の高まり等からリフォームは大きく伸長。



営業利益

リフォームは、提案型・環境型リフォームの推進による大型案件の受注割合の増加等により利益率が改善。不動産フィーとともに安定成長が継続。

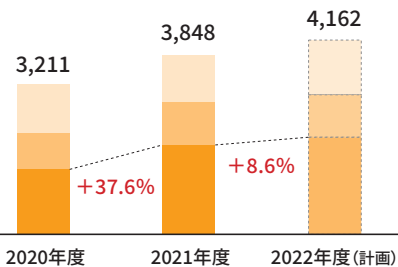


開発型ビジネス

(単位:億円)

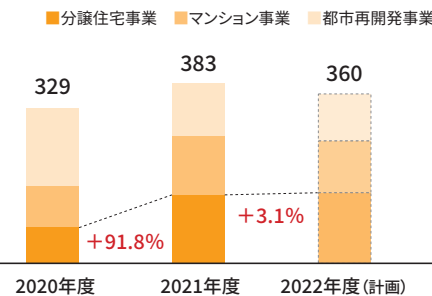
売上高

分譲住宅は継続的な優良土地の仕入れや営業体制の強化により大幅増収。マンション、都市再開発は計画通り進捗。次年度は分譲住宅がけん引し増収を計画。



営業利益

分譲住宅、マンションの売上高の増加等により増益。マンションは大型物件の引渡しが計画通り進捗。次年度は前年度と同程度の利益を計画。

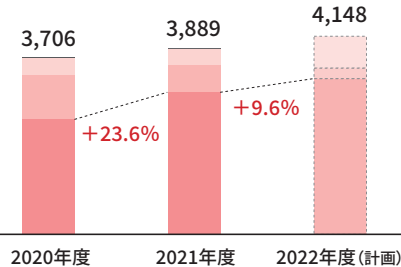


国際ビジネス

(単位:億円)

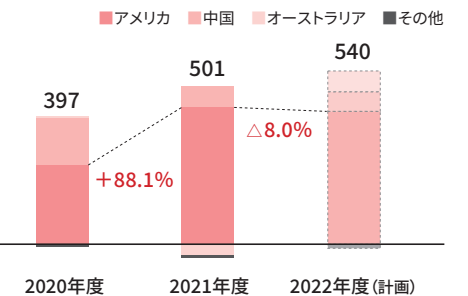
売上高

住宅需要が旺盛な米国で増収。Holt社を連結子会社化し事業展開エリアを拡大。豪州は不動産市場の回復遅れ等により減収。次年度は米国と豪州で増収を計画。



営業利益

米国の住宅販売および宅地開発が、豪州および中国の減益をカバーし増益。次年度は豪州の回復を見込み、国際事業全体で増益を計画。





特集

“強い”と“広い”を 両立する住まいの技術

住まいづくりにおいて、大きなテーマである「構造の強さ」と「設計の自由度」。

この2大テーマに応えるために年々進化を続ける
積水ハウスのオリジナル構法についてご紹介します。

住まいに対する二大ニーズは「安心」と「快適」

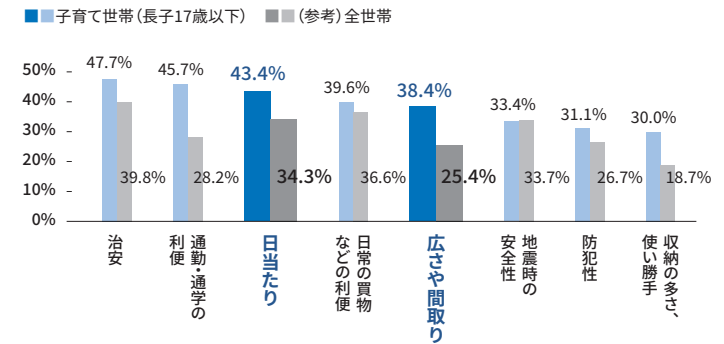
住宅不足の時代から、住生活の豊かさが求められる時代へ 地震が懸念される日本で、望まれるのは強くて広い家

日本では420万戸もの家が足りなかった戦後から、大都市圏に人口が集中する昭和30年代の高度経済成長期まで、住宅不足は続きました。これが解消したのは昭和50年代になってから。「量」が満たされ、世の中のニーズは「質」へと転換します。時代が平成に入ると、家族のあり方や形が変わり、成熟した社会の中、住宅で得られる生活の豊かさへの関心が高まります。国土交通省の「住生活総合調査(平成30年)」によると、子育て世帯が住宅に関して重要と思う項目では「日当たり」が43.4%、「広さや間取り」が38.4%と上位に。長引くコロナ禍により、親は在宅ワーク、子どもはオンライン授業と、在宅時間が増えたことも相まって、住まいに求める期待はますます高まっています。

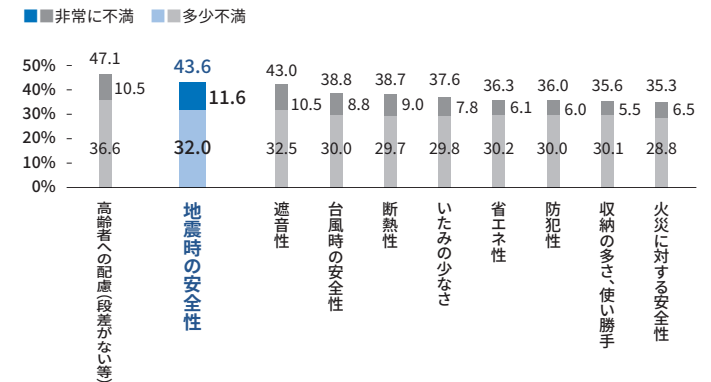
同調査によれば、「地震時の安全性」に対する不満率は、「多少不満」「非常に不満」を合計すると、例年50%弱と常に上位です。1995年の阪神・淡路大震災では、犠牲者の9割弱が家屋の倒壊や家具などの転倒によって亡くなりました。また、甚大な被害を受けた地域における調査では、1981年5月以前の旧耐震基準でつくられた建築物の約30%が「倒壊または崩壊」「大破」と、被害が大きいことが明らかになりました。その後の2011年には、国内観測史上最大規模の東日本大震災が発生。首都直下地震や南海トラフ地震に備え、住宅をはじめ建築物の耐震化が進められています。しかし、いまだに既存の戸建住宅の約30%は新耐震基準適用前につくられ、そのうちの500万戸は耐震性不足という状況です。

地震に“強い”家を建てようとする、大空間の“広い”家をつくるのが難しくなります。この一見矛盾するニーズを満たす技術が、住宅メーカーに求められてきたのです。

子育て世帯が考える住宅および居住環境に関して重要と思う項目

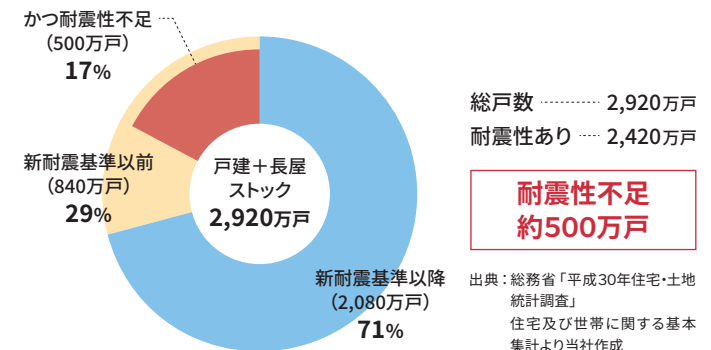


住宅の各要素に対する評価(不満率)

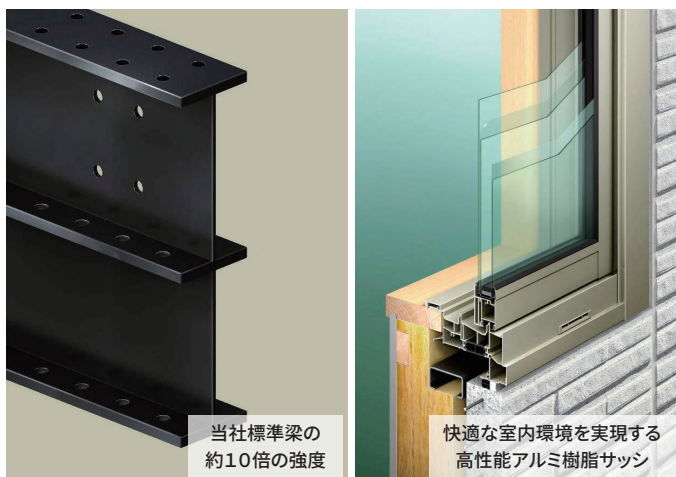


出典：国土交通省「住生活総合調査(平成30年)」

国内住宅ストック(戸建および長屋)の耐震化状況



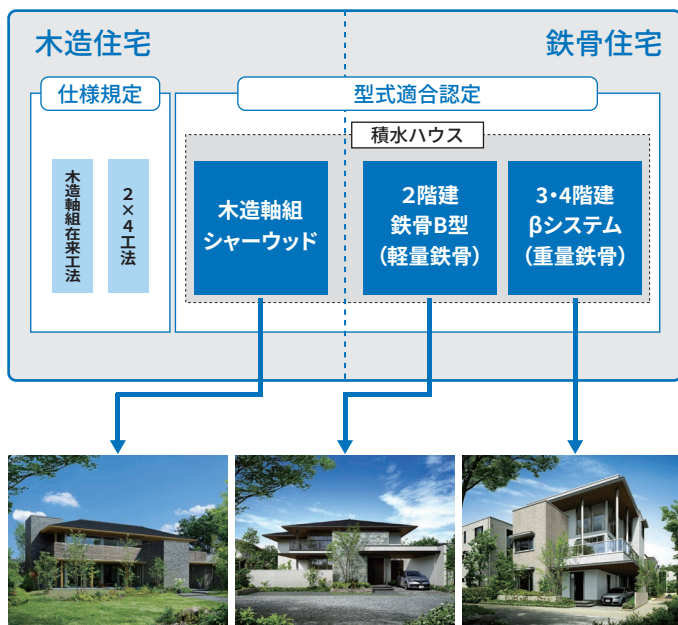
強さと広さを両立し、快適な大空間を実現する当社技術



ダイナミックビームK

超高断熱アルミ樹脂複合サッシ
(SAJサッシ)

3つの構法で取得「型式適合認定」



国が性能を認めた型式適合認定による、自由度の高い家

絶え間ない技術開発により、強さと広さを両立させる構法を確立 大空間へのあくなき挑戦が「ファミリー スイート」に結実

積水ハウスの家づくりの特長は、強さと広さを両立し、快適な大空間を提案できることにあります。1961年には、現行の躯体構造の原点となる軽量鉄骨構造(セキスイハウスB型)を開発。その後、大きな転換点となったのは、2010年に完成した「NBシステム」です。当時、厳格化された建築基準法への対応に留まらず、現在の大開口・大空間のベースとなる技術を確立しました。2017年には、大スパン梁「ダイナミックビーム」を開発し、圧倒的にスリムな躯体でありながら、柱のない7mもの大空間を実現できるようになりました。また、「超高断熱アルミ樹脂複合サッシ(SAJサッシ)」を開発することで、大空間においても高い断熱性を実現する家を提供しています。これらの技術を活用し、家族それぞれが心地よい距離感でつながることのできる大空間リビングを提案したのが2018年に発売した「ファミリー スイート」です。

技術開発は、木造住宅シャーウッドにおいても、同様の取り組みが進んでいます。一般的な在来木造住宅は、建築基準法の仕様に従う「仕様規定」で建築されており、使用する部材に制限が生じるため、設計の自由度が限定される側面があります。一方で、木造を含む積水ハウスの工業化住宅は新商品の開発時に「型式適合認定」を取得しており、独自の高度な技術について、厳密な性能検証のもと、国からその性能を認められています。この認定があるからこそ、大空間で自由度の高い設計においても安全性と品質がしっかり担保された住宅を、効率的に建築することが可能になっています。

コロナ禍に限らず、数年経てば家族のライフスタイルは変わります。柱の少ない大空間の家は、生活の変化に合わせてフレキシブルに間取りを更新できます。耐震性・断熱性を保ちながら、長く住み続けられる家づくりは、大きな社会貢献につながると考えています。

ハード・ソフト・サービスの融合で住まいを幸せな場所に

創業から60年、地道な改善こそが当社の強み 成熟社会に必要なのは感性に響く新たな価値

大空間の実現には、さまざまな課題がありました。強度を高めるため躯体を肉厚にするとコスト増に直結することから、適材適所で厚みを調整するのに苦労しました。さらに、総合住宅研究所と協力し、窓の幅や軒の深さと、心地よさの関係性を分析するなど実証実験を続けてきました。ダイナミックビームの開発においては、梁のコストアップを躯体トータルで最適化し、コスト抑制に成功。これにより、大空間リビングを広く展開することができました。

創業60年という歴史の中で、小さい子どもがドアで指を挟まないようにする、外壁に雨だれの跡がつきにくくするなど、愚直に対応してきた改良改善の蓄積は、積水ハウスの大きな強みです。木造住宅「シャーウッド」、重量鉄骨造「βシステム」でも、ファミリースイートを展開するなどお客様の「幸せ」を追求する姿勢は徹底しています。これからの成熟社会においては、トレンドに沿うのではなく、住まい手の感性に響くような本質的な価値をお届けすることが大切だと考えています。日々、愛着を感じながら、長きにわたり住み続けられる住まいを、ハード・ソフト・サービスを融合したかたちでこれからも提供してまいります。

業務役員
R&D本部
デザイン設計部長
古村嘉浩



2018年の発売以降も、梁型が出ないように高さを抑えた「ダイナミックビームR」の開発など、ファミリースイートを支えるハードの技術は、ますます進化を続けています。

目指す姿：積水ハウスのグローバルビジョン

「わが家」を世界一幸せな場所にする



ハード・ソフト・サービスを融合し
幸せを提案



ESG経営の
リーディング
カンパニーに



積水ハウス
テクノロジーを
世界のデファクト
スタンダードに

住を基軸に、融合したハード・ソフト・サービスを
提供するグローバル企業へ

PLATFORM HOUSE touch



「プラットフォームハウス構想」の第一弾として、2021年に「プラットフォームハウスタッチ」の販売を開始。間取り図と連動し、直観的に操作できるスマホアプリで、外出先からの家電の操作や、室内の状態確認などが可能です。

事業領域

各分野の有機的成長で持続的な成長を実現

積水ハウスグループの 事業ポートフォリオ

国際ビジネス

15.0% 3,889 億円

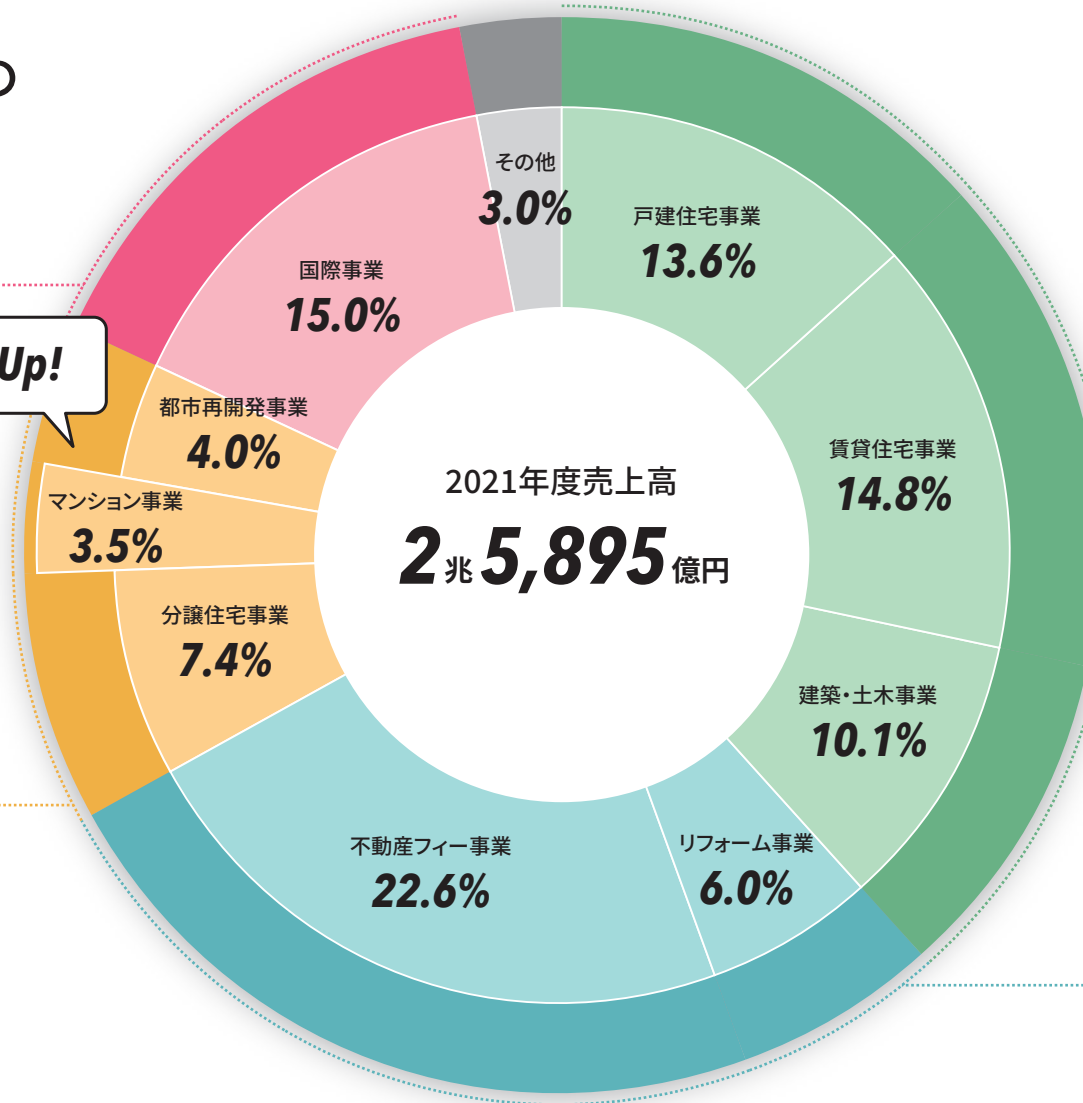
国内で培ってきた最高品質と先端技術で、海外の住宅ニーズを開拓。各国の不動産事情に合わせ、SEKISUI HOUSEブランドを広げます。

開発型ビジネス

14.9% 3,848 億円

魅力的なエリアで、高品質な分譲住宅、マンション、オフィスビル等を開発し、良質なまちづくりを図ります。

Pick Up!



請負型ビジネス

38.6% 9,986 億円

お客様の保有する土地に、付加価値の高い住宅や事業用建物を提供。良質な社会資本の形成に貢献します。

ストック型ビジネス

28.6% 7,411 億円

住宅のリフォームや賃貸住宅の質の高い管理を通じて資産価値の維持と向上を図り、循環型社会の構築を推進します。

Pick Up!

マンション事業

2023年より、「グランドメゾン」をすべてZEH仕様に

東京・名古屋・大阪・福岡など、都市部に特化する徹底したエリア戦略のもと、マンションブランド「グランドメゾン」を展開しています。「ライフスタイルを反映した、心身ともに心地よい住まい」を目指し、自然の通風や採光の確保など快適性を追求しつつ、断熱性の高い複層ガラスを採用するなど環境性能にも配慮。インテリアや設備を含め住まいをトータルにコーディネートします。さらに、エントランスホールや中庭など豊かな共用空間の提案、緑あふれるアプローチや自然石を用いた石積み、地域在来の樹木などを継承した原風景の再現を試みるなど、住まいづくりから街並みづくりまでプロデュースしています。グランドメゾンの原点は“住宅集合”です。単なる“集合住宅”ではなく、住む人それぞれのライフスタイルを満喫できる個々の「住宅」が「集合」したものです。これが、積水ハウスのマンションに対する思想です。これまで250万戸以上の住まいをお届けしてきた豊富な実績と培ってきたノウハウに基づき、お客様の求める生活シーン実現のため、住む人視点で提案できることが強みです。

積水ハウスは戸建住宅だけではなく、マンションのZEH化も進めています。2019年には、日本初となる全住戸ZEHの低層分譲マンション「グランドメゾン覚王山菊坂町」を名古屋に竣工。すべての部屋に太陽光発電と家庭用燃料電池（エネファーム）を採用しました。また、「グランドメゾン上町一丁目タワー」は、同じく家庭用燃料電池を全住戸で採用するとともに、すべての窓に高性能複層真空ガラスを採用。大開口による豊かな眺望と高断熱を両立する超高層分譲マンションとして、広く注目を集めています。

分譲マンション「グランドメゾン」は、2023年以降に発売する全住戸をZEHに、全棟をZEH-M（ゼッチ・マンション）にすることを決定。これからも、環境に配慮したマンション開発を推進していきます。



日本初となる、全住戸でZEH基準を満たす低層分譲マンション「グランドメゾン覚王山菊坂町」。2019年2月、愛知県名古屋市の竣工。



経済産業省の「平成31年度 超高層ZEH-M実証事業」に採択された「グランドメゾン上町一丁目タワー」。大阪市中央区の同物件は、2022年11月に竣工予定。

TOPICS

お客様の「幸せ」とサステナブルな社会の実現に貢献するために。
ESG経営のリーディングカンパニーを目指して、さまざまな活動を行っています。

「5本の樹」計画により生物多様性保全に大きく貢献 世界初となる、保全効果の定量化に成功

日本の「里山」は年々減少し、生物多様性が失われつつあります。年間100万本もの樹木を植栽する造園業者でもある当社は、生物多様性保全に向け、2001年より「5本の樹」計画を開始。20年を経て、その数は1,709万本に達しました。しかし、この活動が生物多様性保全に効果があるのか、評価手段がありませんでした。

そうしたなか、2019年より、琉球大学と株式会社シンクネイチャーとの共同検証を開始。当社の樹木データに加え、大学の保有するビッグデータを活用することで、保

全効果の定量化に世界で初めて成功しました。その効果は、住宅の庭に呼び込める鳥の種類を約2倍、蝶の種類を約5倍に。「5本の樹」計画開始前の2000年と比較して、2070年には41.9%まで生物多様性の回復が可能だとわかりました。この定量評価やシミュレーションは、生物多様性を財務価値化する上で重要な要素となります。当社は「5本の樹」計画の検証結果とともにネイチャー・ポジティブ[※]方法論を公開し認知を高め、業界全体に生物多様性保全の輪が広がることを期待しています。

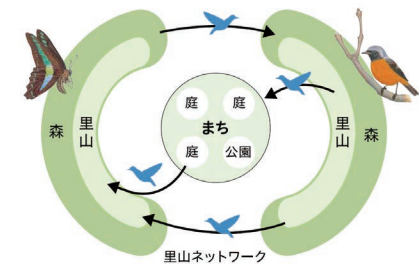
「5本の樹」計画

地域の在来種の中で生きものとの関係が深く、庭木にふさわしい樹形であること、花や実などを見て楽しめること、鳥や蝶がやって来ることなどを基準に定めた288樹種の「5本の樹」を中心に、庭木の提案を行っています。この計画には、“3本は鳥のために、

2本は蝶のために、地域の在来樹種を”という思いが込められています。小さな「点」の庭が連続して「線」になり、街として「面」へ。里山などの自然と住宅地をつなげることで、生態系ネットワークの維持・復活を目指しています。

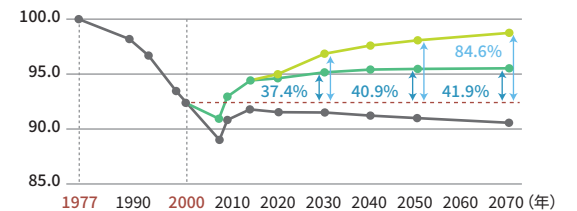
トピックス①

「5本の樹」計画の 効果検証



樹木・鳥・蝶の多様性統合指数シミュレーション

三大都市圏（関東・近畿・中京）



● 「5本の樹」計画を実施しなかった場合の推測値
● 当社のみ「5本の樹」計画を継続した場合の推測値
● 当社のほか他社も同様の取り組みを実施した場合の推測値



ネイチャー・ポジティブ方法論

https://www.sekisuihouse.co.jp/gohon_sp/method/

トピックス②

「Minecraftカップ」の
ゴールドパートナーにSDGsにつながる住宅やまちづくりをテーマに、
子どもの論理的思考を養うためのプログラミング教育を応援

石や土、木や鉄などを模した3Dの立方体ブロックで構築された仮想空間の中で、ものづくりや冒険を楽しむ大人気ゲーム「Minecraft(マイクラフト)」。積水ハウスは、子どもたちのプログラミング思考の醸成に向け、世界各国の教育現場で使用されている「Minecraft: Education Edition(教育版マイクラフト)」を活用した作品コンテスト「Minecraftカップ2021全国大会」のゴールドパートナーを務めました。

今回のメインテーマは「SDGs時代みんなの家、未

来のまち」。家とまちに関連する3つのSDGsのゴールのうち、1つ以上の要素を取り入れた「ワールド」をつくるのが課題となりました。

2022年1月30日には、最終審査会・表彰式を実施。全国484の作品の中から、「積水ハウス賞」に選ばれたのは、浦和マイクラ部(CoderDojo 浦和)の9人のチームによる作品「SDGsで未来を変えろ」。大会をとおり、子どもたちが持続可能な家と、未来のまちづくりについて考える場を提供できる、貴重な機会となりました。

「Minecraftカップ2021全国大会」の応援施策を実施

積水ハウスは、大会を盛り上げるため、SDGsや住宅の仕組みを深く学びたい参加者に向けたオンラインイベントを開催しました。マイクラフト有識者の方に、ゲーム内で最先端住宅を再現していただき、設計に隠された思いを解説。家づくりを根底から

学ぶ、密度の濃い時間となりました。ほかにも、スタッフの案内による展示場見学会や、教育版マイクラフトでの家づくり攻略冊子の配布など、さまざまな学びの機会を用意。大会を最後まできめ細かく支援しました。



2022年1月30日に開催された表彰式の様子。



積水ハウス賞受賞チーム。「すべての人がSDGsを実践できるワールド」がテーマ。

トピックス③

オンライン
工場見学会株主様向けに初のオンライン工場見学会を実施
“双方向コミュニケーション”で有意義な時間に

2021年11月22日、静岡工場にて、「株主様向けオンライン工場見学会」を実施しました。今回、初のオンライン開催となり、約170名の方にご参加いただきました。当日は、視聴者参加型のクイズ出題やチャット・音声による質疑応答など、“双方向コミュニケーション”を重視。工場見学パートでは、現場からのライブ中継と事前にスマートフォンで撮影した動画を組み合わせることで、臨場感を演出。対面時の見学会では、安全面からご案内が難しいところもご覧いただきつつ、積水ハウスの「邸別自

由設計」を支える3つの製造ラインをご紹介します。

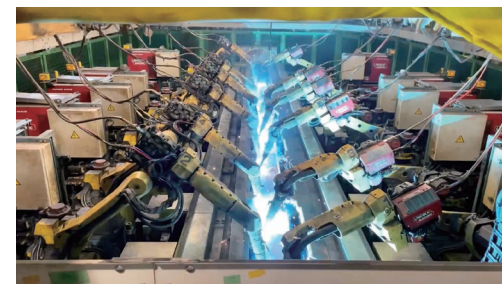
ご参加いただいた株主様からは、「時間と距離に制約がないので参加しやすかった」「実際の工場見学にも行ってみたい」「現場の方々の堅実な仕事ぶりを見て、頼もしく感じた」「今後、シャーウッドの製造工程も見学してみたい」「質疑応答が充実していた」など、好意的な感想を数多くいただきました。

今回の経験で得られたノウハウを活かし、今後も個人株主様とのコミュニケーションを続けてまいります。

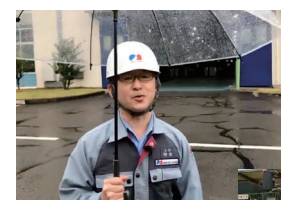
こだわりの「邸別自由設計」を実現

積水ハウスは、お客様一人ひとりのご要望に沿って、最適な住まいをプランニングする「邸別自由設計」を大切にしています。当然、邸宅によって必要な建築部材も異なり、工場で製造している鉄骨軸組は約7万種にのぼります。その工程の多くは、100台以

上のロボットが担当。運搬や溶接、目に見えない傷の確認をロボットが担うことで、高品質な部材を効率的に製造しています。今回の見学会でも、「オートメーション化が進んでいることに感銘を受けた」というお言葉をいただきました。



「H鋼溶接工程」の様子。



工場建屋からの中継シーンとバックヤードの様子。



会社情報／株式情報

会社概要

社 名：積水ハウス株式会社
 設立年月日(実質上)：1960年8月1日
 本 社：〒531-0076
 大阪市北区大淀中一丁目1番88号
 (梅田スカイビルタワーイースト)
 TEL.06-6440-3111(代)
 資 本 金：2,025億9,120万円

取締役および監査役一覧 (2022年4月26日現在)

代表取締役社長執行役員兼CEO：仲井 嘉浩
 代表取締役副会長執行役員：堀内 容介
 代表取締役副社長執行役員：田中 聡
 取締役専務執行役員：三浦 敏治
 取締役専務執行役員：石井 徹
 取締役(社外)：吉丸 由紀子
 取締役(社外)：北沢 利文
 取締役(社外)：中島 好美
 取締役(社外)：武川 恵子
 取締役(社外)：阿部 伸一
 常任監査役：伊藤 みどり
 常任監査役：荻野 隆
 常任監査役(社外)：鶴田 龍一
 監査役(社外)：小林 敬
 監査役(社外)：和田 頼知

株式の状況 (2022年1月31日現在)

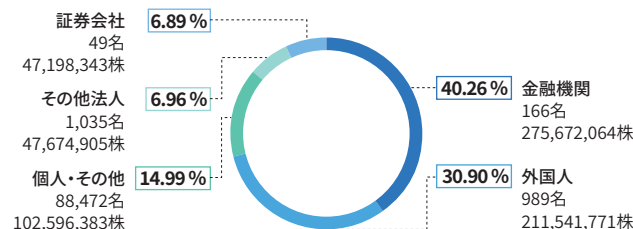
発行可能株式総数：1,978,281,000株
 発行済株式の総数：684,683,466株(うち自己株式9,740,876株)
 単 元 株 数：100株
 株 主 数：90,711名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	121,998,000	18.08
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	38,703,900	5.73
SMBC日興証券株式会社	22,506,700	3.33
積水化学工業株式会社	22,168,727	3.28
積水ハウス育資会	18,961,510	2.81
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	12,232,399	1.81
株式会社三菱UFJ銀行	10,899,615	1.61
第一生命保険株式会社	10,828,430	1.60
JP MORGAN CHASE BANK 385781	7,483,606	1.11
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	7,256,940	1.08

※持株比率については、持株数を発行済株式の総数より自己株式を控除した数で除して算定しています。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度：2月1日から翌年1月31日まで
 定時株主総会：4月
 基準日：期末配当金 1月31日 中間配当金 7月31日
 株主名簿管理人：三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関：三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先：〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
 TEL.0120-094-777(通話料無料)

上場証券取引所：東京証券取引所・名古屋証券取引所

- 各種お手続きについて
- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)にお問い合わせください。
 - 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。
 - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

※本株主メモは2022年3月時点の情報をもとに作成しております。

掲載項目以外の内容については、
 当社ウェブサイトをご参照ください。



<https://www.sekisuihouse.co.jp/company/>

